

## 令和3年度 第2回 岡山県事業評価監視委員会 議事要旨

### ○開催概要

- 1 日 時 令和3年9月30日(木) 13:30~16:00
- 2 場 所 メルパルク岡山「泰平Ⅰ」
- 3 出席者 岡山県事業評価監視委員会 委員 6名  
土木部 技術総括監  
農林水産部 参与(農林技術)  
事務局(技術管理課、農政企画課)  
道路建設課、道路整備課、河川課、防災砂防課、港湾課、  
都市計画課  
耕地課、治山課

### ○議事概要

- 1 開 会
- 2 挨拶(土木部 技術総括監)
- 3 再 評 価

(事務局)	再評価審議対象事業 (第1回事業評価監視委員会で4件を抽出) (土木部関係4件)  「事業採択後10年間を経過した時点で継続中の事業」 ① 県道 宍粟真備線 道路改良事業 ③ 牛窓港海岸 牛窓地区 海岸保全施設整備事業 ⑤ 都市計画道路 早島大砂線 岡山県南広域都市計画事業  「知事が特に再評価の必要があると認める事業」 ⑫ 地域高規格道路 美作岡山道路 道路改良事業
(道路建設課)	① 県道 宍粟真備線 道路改良事業  ・本路線は、総社市宍粟地内の国道180号交差点を起点として、倉敷市真備町箭田地内の国道486号に接続する、地域間連携を担う重要な路線である。 ・現道は幅員狭小箇所が多く、車両のすれ違いが困難であり、

	<p>歩行者等も危険な状況にある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成 28 年に新総社大橋が開通して以降、朝夕における川辺橋西詰の慢性的な渋滞を避ける車輦により、真備方面へ向かう多くの車両が近隣の市道に流入するなど、県道周辺の地域に新たな課題も生じている。</li> <li>今回の再評価では、事業着手後、盛土区間の農道交差部の構造について地元関係者等との調整に時間を要し、課題が解決できる高架構造に変更したことにより、事業費の増額を予定している。</li> <li>事業期間については、高架構造への変更に伴う検討や、それに伴う地元調整、工法変更による施工量の増により、終期を令和 9 年まで延長するものである。</li> <li>B/C は事前評価時 1.94、今回の再評価では、1.55 となっている。</li> <li>本路線は、交通の円滑化、地域間連携道路のネットワーク強化を形成するものであり、交通混雑の軽減等、事業の必要性、重要性は変わらず、また、倉敷市や総社市、地元住民からの整備要望も強いことから、現計画を継続する方針である。</li> </ul> <p>(質疑応答)</p> <p>( 委 員 )      ルート等を具体的に詰めた段階になって地元から反対が出てきたため、事業計画が遅れたということだが、グラフィックで図面を描くとか、立体的なものを映し出すなどの、技術を活用して、事前に地元の意見を聞いていれば、設計を見直すことなく出来たのではないか。</p> <p>(道路建設課)      現状としては、事業着手前の段階でそのような技術を活用した設計を行うことは費用を要するため、事業着手前においては難しいと考えている。</p> <p>( 委 員 )      地元の方も、事前の段階では実際に完成のイメージを持っていない状況で説明を受けた後、詳細な設計が出来て改めて説明を受けると、反対があったので、また設計し直す。これは、時間の無駄だし、労働コストもかかっている。</p> <p>今はないということであれば、将来的に、そういう技術を</p>
--	--

	<p>使うことは無理なのか。</p>
(道路建設課)	<p>3次元データを使って道路の構造をお見せするには、道路の細かな規格を設計する必要があり、事前の調査の精度では確定的なものが出せない中で、どうしても一般的な構造をもって、ご理解いただくよう調整している。</p> <p>これからの時代を考えれば、3次元データの活用も当然考えていくべきだと思うが、事業着手前という限られた情報の中では、どうしても限られた絵の提示となり、現状では厳しいところもある。</p>
(委員)	<p>現状のやり方でしか、方法がないので、事業期間の延長は避けることのできない状況であるという理解でよいか。</p>
(道路建設課)	<p>実際には、3次元データの活用については、当然国も含めて検討されている。今後の展開としては、そういう活用についても考えていくべきとは思っている。</p>
(委員)	<p>現在、自転車は車両なので車道の左側を通るように、子供たちに指導されている。この事業の計画では歩道が2.5メートルあり、割と広く、自転車が歩道を走りそうに感じるが、どう考えられているか。</p>
(道路建設課)	<p>歩道計画については、2.5メートルの内、歩行者が通るスペースとして2メートル、残りの50センチは規制標識等の施設帯としている。</p> <p>自転車については、現況交通が少なく将来的にも一定量しかないものと考えており、基本、自転車は道路交通法に基づいて車道の路肩を走行するというで計画している。</p>
(委員)	<p>この場所は真備の水害で浸水した地域だと思うが、被災前後で設計の内容に変更はあったのか。内水被害が起きた地域なので、例えば避難するための道路としての機能とか、そのようなものも検討されたのか。</p>
(道路建設課)	<p>被災前後において、当初からの計画内容に変更はないが、</p>

<p>( 港 湾 課 )</p>	<p>現在の計画が堤防から下りてくる計画であり、道路面は現地盤よりは少し高くなる。今後は、避難路としても活用されると思っている。</p> <p>③ 牛窓港海岸 牛窓地区 海岸保全施設整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業は、牛窓港海岸牛窓地区において、高潮や津波による浸水被害を防止するため、護岸や胸壁などの海岸保全施設の整備を行うものである。</li> <li>・牛窓地区は瀬戸内市南東部に位置しており、背後地の状況については、県道岡山牛窓線が通っており、瀬戸内市の指定避難所にもなっている牛窓中学校や牛窓東小学校・幼稚園、及び牛窓綾浦コミュニティ活性化センター等の公共施設が立地し、護岸の背後には民家や農地がある。</li> <li>・平成16年16号台風では、高潮により護岸背後の建物や道路の周辺まで海水が浸水し、床上浸水203戸、床下浸水134戸の被害が生じた。</li> <li>・事業の目的については、既設の護岸が築造から多年が経過し老朽化が著しいことや、高さが不足していることにより浸水被害が生じていることから、海岸保全施設を整備することにより、高潮等による浸水から国土の保全および、背後地の住民の生命・財産の防護を図ることとしている。</li> <li>・前回評価時からの変更点については、計画完了年度を事業費増に伴うもの及び地元調整に時間を要したため平成29年度から令和8年度に9年延伸しており、また、事業費については、9億円から16億円に約7億円の増額となっている。これは、軟弱地盤が確認されたことによる工法変更に伴うものであり、海岸保全施設の整備にあたり構造物の安定性を満たすため地盤改良を行ったものによる。</li> <li>・B/Cについては、126.6であり、事業の必要性、重要性に変わりはなく、事業を継続する方針である。</li> </ul> <p>(質疑応答)</p> <p>( 委 員 ) 事業期間を9年間延長するということは、あと5年で工事完了することのようだが、その根拠はなにか。</p>
------------------	--

<p>( 港 湾 課 )</p>	<p>時間を要していた防護ライン上の開口部についての地元調整がようやく解決し、工事を進められる状況になったので、予算の状況も踏まえあと5年で終わる予定として計画をしている。</p>
<p>( 委 員 )</p>	<p>地元がこの事業に対して了解するのにこれだけ時間がかかったポイントは何か。 また、軟弱地盤が見つかったタイミングはいつか。</p>
<p>( 港 湾 課 )</p>	<p>地元調整が長引いた理由については、海岸施設が海岸沿いの場合、開口部を設けるが、開口部は管理する必要が生じ、また、一般の護岸と比べると陸閘が高価であるため、ある程度集約して計画している。ところが、地元から、すぐ海に出られるように数を増やすよう要望があり、その調整に折り合いがつかず、工事に着手できなかつたという理由がある。 また、軟弱地盤については、事業着手後、優先的に進める区間で数か所ボーリング調査を行った結果、一部で軟弱な地盤が見つかり、それを基に設計したところ、改良が必要となった。</p>
<p>( 委 員 )</p>	<p>この地域には既存の防潮堤はなかったのか。既存施設の嵩上げであれば、開口部は従来の場所でいいという話になるが、そうではなく、既存施設のないところに防潮堤を新設するということでよかつたか。</p>
<p>( 港 湾 課 )</p>	<p>そのとおり、地元と調整が難航した場所については、ほぼ道路と同じような高さの護岸に、新たに防潮堤を整備する計画になっている。</p>
<p>( 委 員 )</p>	<p>平成16年の16号台風のとき、実際の被害額は幾らか。</p>
<p>( 港 湾 課 )</p>	<p>いまここでは、台風における被害額は持ち合わせてない。</p>
<p>( 委 員 )</p>	<p>費用便益算定における被害額について、発生確率を掛けて、1年当たりの被害額を計算しているということだが、この発</p>

	<p>生確率はどの程度か。</p>
( 港 湾 課 )	<p>10年確率から50年確率まで、各確率年度の想定被害額は約76億円であり、それに年平均確率を掛けて年平均便益を算定している。</p>
( 委 員 )	<p>それで、1年当たりこの数字になるわけか。</p>
( 港 湾 課 )	<p>そのとおりである。</p>
( 委 員 )	<p>そもそも論で意見を言うと、軟弱地盤が判明したのであれば、対策を講じる必要があるわけで、この地域における災害防止のために護岸整備を行うのであれば、事業として実施せざるを得ないのではないか。にも拘らず、費用対効果を計算するのは、そのコストを考慮すると、あまり効率的ではないと思う。これは、次年度以降、委員会として事業評価の中での取り扱いをどうすべきか検討すればいいのではないかと思う。</p>
(都市計画課)	<p>⑤ 都市計画道路 早島大砂線 岡山県南広域都市計画事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本路線は、国道2号早島中交差点から倉敷市北東部の都市計画道路富本町三田線二子西交差点に至る全長3.3kmの路線で、早島町と倉敷市を連携し、第3次緊急輸送道路にも指定されている重要な幹線道路である。</li> <li>・本路線のうち、倉敷市分約2.3kmは4車線で整備が完了しているが、早島町分の約1.0kmは、2車線で未整備のため、本事業にて4車線化を行っている。</li> <li>・本事業により、早島町北部の岡山県総合流通センターから早島ICや国道2号へのアクセス性・機動性を高めるとともに、各拠点や各地域に快適に行き来できるなど、都市圏全体の連携・交流を促進し、都市圏としての一体性を形成する。また、歩道の拡幅整備により、交通の円滑化、安全性の向上を図るとともに、生活道路への通過交通を排除し、安全・安心なまちづくりを行う。</li> </ul>

<p>( 委 員 )</p> <p>(都市計画課)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画交通量は、事前評価時に 16,478 台／日と推計していたが、今回の再評価では、平成 27 年道路交通センサスの交通量 21,769 台／日を基準として、ブロック別・車種別、走行台キロの伸び率を考慮した見直しを行い、20,580 台／日とした。</li> <li>・事業費は、土質調査の結果約 2.4 億円の増、詳細設計及び関係機関との協議の結果約 2.6 億円の増、用地・補償費の詳細調査の結果約 1.5 億円の増となり、15.0 億円から 21.5 億円になる見込みとなった。</li> <li>・事業期間は、用地交渉等の地元調整や工種の追加により工事ボリュームが増となったことから、完了年度を平成 30 年度から令和 6 年度に延長する必要が生じた。</li> <li>・B/Cについては、事前評価時は、1.53、今回の再評価では 1.93 である。</li> <li>・用地買収が完了し、本路線の必要性、重要性は変わらないことから、現計画を継続する方針である。</li> </ul> <p>(質疑応答)</p> <p>設計後に町道と平面交差する予定だったのが立体交差になって、その理由としては道路の勾配が急になるためだということだが、急になるっていうのは、もう事前から分かっていたことだろうと思うし、そのあたりの調整は、事業着手前にできないものなのか。うがった見方をすると、最初の事業費を安く設定して事前評価を行い、後になってコストが上がっていくという、何かいつもの定型のパターンにはまってるような気がする。予見される設計変更は、やはり最初に挙げておいて、事業費が増える可能性があるということを踏まえて、事前評価を行ったほうがいいと思う。</p> <p>町道は現状 2 車線ではないが、現在はこの事業と併せて町道を 2 車線にするという計画になっている。ただ、当時の実情としては、実際にそういった話はあったが、町の計画として確定した話ではなく、また勾配はきつくなるが、平面交差でも道路構造令上の問題はなかったことから、当時、町道の計画等の詳細は詰めずに、事前評価を行ったという経緯がある。リスクを計上すべきではないかということは、今後事前</p>
-------------------------------	---

	<p>評価をしていく際には十分検討していくべきであると考えている。</p>
( 委 員 )	<p>どこまでできるのかというのは、難しいところはよく理解できるが、あくまで情報としてあるものはどんどん挙げておいて、その上で事前評価をすべきではないか。</p>
( 委 員 )	<p>こういうケースはほかでも十分あると思うので、こういう経験を積んだ上で、初期対応としてどうすべきだったのか、データ収集や交渉の仕方などを整理して、それを代々伝えていけるようなシステムにしておけば、今度また同じような状況に直面したときに、全然対応が違ってくると思う。そういう知恵を次の世代にきちんと伝えてほしい。</p>
( 委 員 )	<p>立体交差になるということで、この団地の方は、バイパスのほうに行くときには、一回北に迂回してから、バイパスのほうに行くというルートになってくると思うが、それは、住民の方にもご理解いただいているということでよいか。</p>
(都市計画課)	<p>住民の方にも、そのようにご理解いただいている。</p>
(道路建設課)	<p>⑫ 地域高規格道路 美作岡山道路 道路改良事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・美作岡山道路は、岡山市東区瀬戸町から勝央町までの全線 36 km の自動車専用道路で、現在、全線の約 6 割を供用しており、残る湯郷温泉 I C ～吉井 I C 間を県が、瀬戸 I C ～瀬戸 J C T 間を岡山市が事業を進めている。</li> <li>・道路整備により、移動時間の短縮や沿線への企業立地による地域の活性化、災害時の南北の広域移動ルートの確保により、迅速な救援活動にも寄与する。</li> <li>・昨年度、岡山市施行分について、市の事業再評価において、事業費の増加や事業期間の延長が認められたことや県が施行している湯郷温泉 I C ～英田 I C 間の事業費が増加するため、全体事業費は、1,344 億円から 1,481 億円に増加した。</li> <li>・湯郷温泉 I C ～英田 I C 間については、土質調査の結果、</li> </ul>

<p>( 委 員 )</p> <p>(道路建設課)</p>	<p>地盤改良や法面对策工法の変更が生じたことなどにより、事業費が増加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ これらを反映した全線の費用対効果は1. 2となり、整備効果が確認される。</li> <li>・ 所要時間の短縮による利便性の向上や企業誘致による活性化や災害への迅速な対応が期待されることから、現計画を継続する方針である。</li> </ul> <p>(質疑応答)</p> <p>この事業は地域振興や経済産業振興にとって大変重要だと思う。特に、県南と県北を結ぶ高規格の道路ができれば、非常に経済効果が大きい。沿線地域の産業振興政策についても説明してもらえれば、より道路の整備効果が分かりやすいと思うが、その辺は確認しているか。</p> <p>沿線の市町の振興計画にインターを活用した企業誘致や地域の活性化策が位置付けられている。</p>
-------------------------------	---

## 5 事後評価

<p>( 事 務 局 )</p>	<p>事後評価対象事業について、事務局より概要説明し、その中から、次回事業評価監視委員会において審議する事業を抽出</p> <p>令和3年度 事後評価対象事業の概要説明 (土木部関係6件)</p> <p>河川改修事業</p> <p>①一級河川 初瀬川 和気郡和気町福富～衣笠 工種：河道掘削、護岸等 概要：延長 1,370m 事業期間：変更なし(平成4～31年度) 事業費：2.2億円減額(全体事業費25.5億円)</p>
------------------	---

②一級河川 小野田川

赤磐市岡～沢原

工種：河道掘削、橋梁の架け替え等

概要：延長 2,100m

事業期間：1年延長（平成元～29年度）

事業費：0.1億円減額（全体事業費 22.1億円）

砂防事業

③砂防指定地 福渡川

岡山市北区建部町福渡

工種：砂防堰堤

概要：1基

事業期間：変更なし（平成 27～令和元年度）

事業費：変更なし（全体事業費 2.0億円）

④砂防指定地 西川大橋川

久米郡美咲町西川

工種：砂防堰堤

概要：1基

事業期間：1年短縮（平成 28～令和元年度）

事業費：1.6億円減額（全体事業費 1.5億円）

⑤砂防指定地 湯谷川

久米郡美咲町打穴里

工種：砂防堰堤

概要：1基

事業期間：変更なし（平成 27～令和元年度）

事業費：0.5億円減額（全体事業費 1.5億円）

津山広域都市計画道路事業

⑥都市計画道路 河辺高野山西線

津山市河辺～押入

工種：バイパス

概要：延長 L=0.66km 幅員 W=6.0(15.0～27.0)m

事業期間：変更なし（平成 23～30 年度）

事業費：変更なし（全体事業費 35.2 億円）

（農林水産部関係 11 件）

防災事業（ため池）

⑦松木池地区

小田郡矢掛町里山田

工種：ため池改修

概要：1 箇所

事業期間：変更なし（平成 25～28 年度）

事業費：0.2 億円減額（全体事業費 1.6 億円）

⑧南奥池地区

赤磐市南方

工種：ため池改修

概要：1 箇所

事業期間：1 年短縮（平成 26～28 年度）

事業費：0.1 億円増額（全体事業費 1.2 億円）

防災事業（地震対策）

⑨権兵衛池地区

津山市新野山形

工種：ため池改修

概要：1 箇所

	<p>事業期間：変更なし（平成 25～28 年度）  事業費：1.0 億円減額（全体事業費 2.0 億円）</p> <p>防災事業（用排水施設）</p> <p>⑩羽賀峠地区  小田郡矢掛町小田、宇内  工種：水路工  概要：延長 L=1,510m  事業期間：2 年延長（平成 23～28 年度）  事業費：1.7 億円増額（全体事業費 4.1 億円）</p> <p>防災事業（湛水防除）</p> <p>⑪中川第 1 地区  岡山市北区一宮  工種：排水機  概要：排水機 φ 900 mm×2 台  事業期間：1 年延長（平成 24～28 年度）  事業費：1.9 億円減額（全体事業費 3.1 億円）</p> <p>防災事業（海岸保全）</p> <p>⑫児島七区 3 期地区  岡山市南区北七区、玉野市東七区  工種：根固工、堤防工、裏法被覆工  概要：根固工 L=1,751.0m  堤防工 L= 629.0m  裏法被覆工 L= 880.0m  事業期間：1 年短縮（平成 25～28 年度）  事業費：1.8 億円増額（全体事業費 9.8 億円）</p>
--	--

防災事業（河川応急）

⑬久米地区

総社市久米

工種：サイホン工

概要：一式

事業期間：変更なし（平成 26～28 年度）

事業費：変更なし（全体事業費 1.4 億円）

広域営農団地農道整備事業

⑭阿新地区

新見市豊永赤馬～新見市哲多町老栄

工種：農道整備

概要：延長 L=14.4 km、B=4.0(5.0)～6.0(8.0)m

事業期間：1 年延長（平成 9～28 年度）

事業費：5.2 億円減額（全体事業費 137.8 億円）

農道保全対策事業

⑮津山 3 期地区

津山市野村～中北上

工種：橋梁耐震補強、歩道整備、舗装

概要：橋梁耐震補強 5 橋

歩道整備 L=778m

舗装工 L=2,980m

事業期間：1 年延長（平成 25～28 年度）

事業費：1.1 億円増額（全体事業費 4.1 億円）

中山間地域総合整備事業

<p>(事務局)</p>	<p>⑩美作地区  美作市 一円  工種：農業用排水、ほ場整備、農地防災、暗渠排水他  概要：農業用排水 L=2,605m  ほ場整備 A=9.9ha  農地防災 3ヶ所  暗渠排水 A=20.2ha 他  事業期間：変更なし（平成23～28年度）  事業費：5.7億円減額（全体事業費9.0億円）</p> <p>林道整備事業</p> <p>⑪森林基幹道 作備線  真庭市美甘～新見市大佐永富地内  工種：林道整備  概要：延長 L=20.7km、幅員 W=4.0(5.0)～6.0(7.0)m  事業期間：変更なし（平成8～28年度）  事業費：変更なし（全体事業費43.1億円）</p> <p>事務局からの概要説明を踏まえ、令和3年度事後評価対象事業17件から、「事業種別ごと」に事業費、事業期間など変動の大きな事業を対象に、事後評価審議案件5件を抽出した。</p> <p>○土木部関係（1件）  砂防事業  ④ 砂防指定地 西川大橋川</p> <p>○農林水産部関係（4件）  防災事業（用排水施設）</p>
--------------	---

	<p>⑩ 羽賀峠地区 防災事業（湛水防除）</p> <p>⑪ 中川第1地区 防災事業（海岸保全）</p> <p>⑫ 児島七区3期地区 農道保全対策事業</p> <p>⑮ 津山3期地区</p>
--	---

## 7 閉会